

12/29 木曜

沖縄県知事市辺野古の米軍新基地建設で、大浦湾の埋め立て半定期域にある軟弱地盤の改良工事を強制するため、斎藤鉄太郎市交通相は、玉城三一知事がむじるのを拒否してきた設計変更の承認を代執行しあつた。地方面立法に基づき監督体に任せられた事務を国が代執行するのは初めてです。沖縄の民意を乱闘に踏みにじる畠田文雄政権の暴挙に強く抗議します。

### 銃剣とフルダーサー再現

「史上初の代執行をすれば、権力発動で地方自治を押しつぶした」として、畠田文雄内閣は斎藤国交相の名前で、「陸軍の活用を機会に、辺野古新基地建設（社説）

地域で、大浦湾の埋め立て半定期域にある軟弱地盤の改良工事を強制するため、斎藤鉄太郎市交通相は、玉城三一知事がむじるのを拒否してきた設計変更の承認を代執行しあつた。地方面立法に基づき監督体に任せられた事務を国が代執行するのは初めてです。沖縄の民意を乱闘に踏みにじる畠田文雄政権の暴挙に強く抗議します。

## 主張

「ヤマモトの新基地建設も、米国統治下に吹き荒れた『銃剣』と『フルダーサー』による強制土地接収を新たな形で実現するものだ」と書かれたものだ（沖縄タイムス同日社説）。

沖縄の埋め立て工事は、トニー・知事が25日に設計変更の承認は困難

予定海域に「ヤマモト並み」の軟弱地盤が広範囲に見つかった

方針とする政府機関の沖縄防衛局が私人

の不承認を取り消す裁決を行った

れてしまつた。今回、畠田政権の下で強行された代執行は、米軍の「銃剣」、「フルダーサー」による土地強奪を想起させ、あまり「歴史に汚点を残す」ものだ。設計変更は、大浦湾の埋め立て工事が25日に設計変更の承認は困難

の不承認を取り消す裁決を行つた。辺野古新基地建設の推進をめでた。しかし、軟弱地盤の改良工事を始めようとして

新基地反対の声を全国で聞いた。しかし、代執行が回数だけは開拓（私人）の権利・利益の救済が目的の行政不服審査法を駆使を要して設計変更の承認を行つたのは何の道理もありません。

## 沖縄の民意と自治否定の暴挙

し表明し、斎藤国交相が代執行する見通しになつたことを受け、こう書かれていました。

米国統治下の沖縄では、新たな米軍基地建設のため、銃剣で武装した米兵が住民を追つて移りやめたり、農地をフルダーサーで敷きなりして土地を強制接収する無法が行われていました。

めです。公有水面埋立法に基づき、知事の承認が必要で、防衛省沖縄防衛局が申請してしまつた。トニー・知事は、地盤改良工事は環境保全や災害防止に十分配慮したもの

でした。しかし、國交相は知事に承認するべき旨を出しました。

したとして知事の不承認を取り消す手続が、なりあり構わぬ手段で、した。國交相は知事に承認するべき旨を出しました。

めです。公有水面埋立法に基づき、知事の承認が必要で、防衛省沖縄防衛局が申請してしまつた。トニー・知事は、地盤改良工事は環境保全や災害防止に十分配慮したもの

でした。しかし、國交相は知事に承認するべき旨を出しました。

したとして知事の不承認を取り消す手續が必要となるといわれます。今回の代執行は民意に順り、都道府県の判断を政府の意のままに覆す先例をつけたもので、沖縄だけの問題ではありません。

「地方自治を破壊し新基地建設を進めるには許されない」の西を受けた知事は不承認を頭ごと拂つて、全国が心配する必要がある。